



「梅雨の長雨で平石農場のひまわりの開花が心配されましたが、例年通り見事に咲きそろいました」(8月20日)  
 (写真は阿南高校の「地域文化コース」の生徒の皆さんです)



令和2年9月1日

発行人●阿南町公民館編集部 編集人●公民館報編集委員会 印刷所●飯田共同印刷株式会社  
 連絡●〒399-1511 東條58-1 TEL 22-2270 FAX 22-2287 E-mail:kyouiku@town.anan.nagano.jp

# あな ン

も く じ

- P1 表紙 遊歩道
- P2・3 わが町を盛り上げよう (番外編)
- P4 大陸流転
- P5 フレッシュギャルはあなた 私の趣味・自慢、私の夢
- P6 公民館分館紹介
- P7 できごと
- P8 あの人 この人 うちのホープ・編集後記

## 遊歩道

この春、2羽の雌鶏を飼い始めました。そう、「にわにはにわにとりがある」んです。生後3ヶ月半でやってきた時は、まだピヨピヨと鳴き、トサカが生え始めたばかりでした。庭の草をついばみ、虫を追いかけて、砂浴びをする様子は見飽きることなく、短い足で走る姿やお尻を振りながら後をついてくる姿は愛らしいです。

生後6ヶ月を過ぎた時、初めて卵を産みました。「安全で快適」と自ら見つけた場所でウロウロ、ソワソワ、腰を下ろしてみたり、立ち上がったたり：なかなか産まれません。結局、卵が出てきたのは、産卵場所に入ってから50分後のことでした。羽を少し広げて力む息遣いも見て取れ、3回目の力みでコロソと卵が出てきた時には感動しました。産んだ本人(鶏)は体力を使い果たし、放心状態。

初卵だったからとは言え、1つの卵を産むのにこんなにもエネルギーと時間を費やしていたとは。安価で売られている身近な食材ですが、鶏たちの陰の努力を知り、より一層そのありがたみが増しました。「アニマル・ウェル・フェア(動物福祉)」、「動物愛護」のみならず人間の生活に欠かせない動物たちの飼育環境の向上が促進されることを願います。



**わが町を盛り上げよう**  
**楽しんで、長く**  
**続けられる防災活動を**  
**防災士集団「おやじの会」発足!**  
**番外編**

九月一日は防災の日。世界中、そして日本列島もまた新型コロナウイルスに翻弄され続ける中、梅雨明け後は記録的な猛暑に襲われ、連日熱中症の危険と隣り合わせに。

東日本大震災後、私たちの地域で注目されているのは、それを上回る甚大な被害が想定される南海トラフ巨大地震である。予想死者数は全国で三十二万人を超えると言われ、当町も最大震度はこれまで経験したことのない6強との予想。

発災後は沿岸地域からの物流がストップすることも踏まえ、当町ではかねてから準備されてきたボランティアセンターが開設され、七月三十日の立ち上げの会に、おやじの会代表の金田和弘さんも参加した。

\*\*\*\*\*  
 一年間温めてきた『おやじの会』は、枠組みを超えた新しい自主防災組織を目指しており、第一



おやじの会のメンバー

期生の消防団OBの防災士五名で構成され、この四月一日発足。五年先の未来を考える時、子ども達が県外へ出て、いつか自信を持って帰って来られる町に、防災という基盤を固め、地域のつながりを作っていくための思いのもと、まず子ども達が楽しみながら防災に取り組んでいくこと、それが自らの内側に残っていく、やがて力になっていく、そんな活動のお手伝いをしたいと思っている。

金田代表の地元富草小学校では、親子レクの取り組みで、避難所にもなり得る小学校のグラウンドに、災害時に大変役立つ『かまどベンチ』を作成。その後も更に数を増やし、防災ミニキャンプでは、メンバーの子ども達が在籍していた

ご縁もあり、小学校のかまどベンチによる炊き出し訓練に共に取り組み、昨年は地域の皆さんにも参加の呼びかけを行い、富草防災フェスに発展。



かまどベンチが完成

地域の方も共に防災への興味を持ち、命を守るための知識を体感してもらっている。もちろん現役の消防団の協力による放水訓練見学や煙体験、県に二台しかない貴重なバイク型の消火機器ミストドラゴンの試演と体験、おやじの会ではお母さん達に人気の非常食等の実食と備えのスズメ等、様々な防災体験ができることも魅力の一つ。金田代表はこう語る。

「富草小では二年、三年と継続して行う中で、学校のみならず、保育園や地域の皆さんも巻き込めます。確実に定着している実感があります。お父さんが現役の消防団という子達も大勢おり、その大切



防災キャンプの炊き出し訓練

な役割や活動を学んだり、実際に目の前で見て理解してもらえ。気の長い話かも知れませんが、未来の団員確保にもつながる貴重な機会ともなっています」。

おやじの会メンバーの一人、松下さんの地元大下条小学校でも、昨年は、消防団員が参加のもと、



消防団の皆さんも尽力



初めての防災ミニキャンプが開催され、今後も更なる取り組みを共に進めて行きたいとのこと。

そんな取り組みが、やがて町内全体へと広がっていけば、災害に強い町作りに貢献出来るはず。

「みんな、やらなきゃいけないとは思っているんですよ。ただ、なかなかそのきっかけ、機会がない。



貴重なミストドラゴン体験

今コロナ禍で、手洗いうがいやマスク着用が定着し、新しい生活様式と言われていきます。それと同じように、まずは子ども達から、そしてその親御さん達もいっしょに、防災への取り組み体験を繰り返していくことで、生活の中に定着して当たり前になれば、もしもの時に必ず役立つと思うんです」。



非常食の実食とスヌメ

災害発生のイメージ

① 自 助 (金田代表の場合)

在宅避難を第一に、自宅(備蓄)、車内(非常持ち出し袋常備)、自宅横に①防災ハウスを置き、防災用品他、ここにも分散備蓄。②軽トラシエル(軽トラの荷台に装着可能の、大人二人は寝れる簡易ハウス)作成。③屋台型キッチンカー(炊き出しが出来るように遊び心を取り入れて)作成。④雨水貯水タンク設置。

② 共 助

小さな地域内、お互いに助け合う。

③ 公 助

行政サイドからの援助は、その他の対応に追われ、時間がかかります。

オススメ防災グッズ



地震感知充電たまご

(振動を感知する、手巻き充電式ラジオ。サイレンも鳴ります)



卓上ライト&懐中電灯

(ライトはそれぞれ取り外して置くことができ、電池が引き出しに収納可能)



キッチンカー



昨年の防災フェスを終えて

「目指すのは長続きする防災。楽しくないと続かないんですよ。もちろん有事の際はそんな余裕もなくなるかも知れませんが、今やれることは、みんな楽しんでながら未来につながる防災の種を撒いていくことだと思ってます」。



金田代表(写真左)

# 大陸流転

## 敗戦そして抑留8年

(22)

熊谷秋穂氏著

### 日本人は後方に帰れ

国民党蒋介石軍の精鋭部隊数万は四平街に強固な要塞を構築して死守したが、ついに八路軍の四次大攻勢によって落城した。

俺達がこの四平作戦に従事するようになると、敵の攻撃は一段と激しさを増して来た。

迫撃砲が近くで炸裂するようになってから、行軍中に五人の日本人が逃亡した。

五人は何やら逃亡計画を練っていたが、ついに実行に移した。「逃亡すれば銃殺する」と聞いていたので、大胆な行動だった。無事であってほしいと願った。前線が近かったためだろうか、八路軍が行方を追わなかったことが幸いして、彼らの逃亡は成功した。無事に日本へ帰っていると思うが、その後の消息は知らない。戦闘に入る前の行軍で、日本人の隊員は相変わらず落伍者が多かった。

幹部が、日本人担架隊員を集めて「前線の担架隊任務は駄目だ。日本人は後勤部隊に帰れ」と命令した。

「良かった、良かった」と抱き合って皆で喜び合った。それを見て八路軍は不思議そうな顔をしていた。後勤の仕事は決して楽ではなかったが、命だけは危険にさらされることはないだろうとの単純な考えだった。

甘く考えていたが、後方任務は実に重労働で、弾薬倉庫の建設と黄色火薬の荷車積み込みと箱に詰められた弾丸を荷車から降ろす仕事だった。それも夜間作業が毎日毎日続いた。「早く日本に帰りたい。母は弟、妹を連れて日本に帰れたかどうか」。こんな思いがいつも頭の片隅から離れることはなかった。

### 黄色火薬の積み降ろし

転勤して来た所はハルピンだった。

部隊の落ち着き先は後勤兵站部と称する所で、白昼はスパイの暗躍があつて危険だったので、夜間に仕事した。

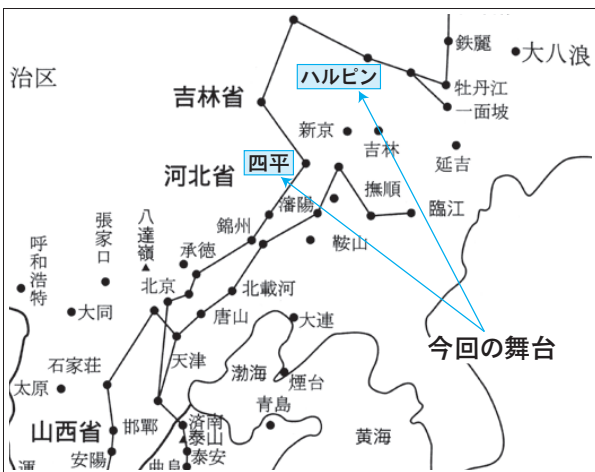
ハルピン郊外で飛行機場附近の空き地に大きな穴を掘って、弾薬倉庫を造った。黄色火薬の汽車への積み込みと降ろす作業は、毎晩毎晩、雨の日も雪の日も、厳しい肉体労働を強いられた。火薬は五〇キロ入りの木箱に詰められていて、黄色い粉末になっている。自分の体重も五〇キロ前後だったから、担いで運ぶのは重労働だった。担ぐ時に安定を欠くと地面に落下して箱が割れ、もうもうと黄色い火薬が舞い上がるのだ。着ている服も下着のシャツも、真っ黄色に変色した。目の玉の白目も黄色になった。この粉が気管支に入ると、咳が出て痰も唾液も黄色だ。すごく苦いから、たまつたもんじゃない。

二人で抱えて、大事に肩に担がせてもらう。バランスを少し崩すと箱は落下して割れる。すると、銃をかまえて警備に当たっている八路の兵士から大きな罵声が飛ぶ。それだけならいいが、銃の床尾でこずかれるから怖い。水で口をすすいでも苦味は消えることは

ないので始末が悪い。手についた苦みもとれない。万頭が主食に出るが、手で持って食べると粉がついて食べられないが、空腹を満たすためには食べずにはいられたかった。

「軍人でもなかった俺達が、なぜ強制抑留され、こんな苦しい目に合わなくてはならないのか」と不満でならなかった。

「俺は軍籍はない。一般の日本国民だ」と言うのに、この強制抑留と強制労働は一体何だったんだと不思議でならない。補償はいずれの政府によってされるのか。「青春を返して」と言いたい。





# 私の趣味・自慢!

和合 巾川 熊谷 <sup>あゆみ</sup> 鮎美さん

「オムライスが大好き!」そう話す鮎美さんは、毎週木曜日を「オムライスの日」とし、「おどもカフェ」で腕を振っています。

数年前に、アルバイト先のカフェで出会った“トロトロふわふわ”のオムライスに衝撃を受け、以来、オムライスの食べ歩きをし、自分なりのオムライスを作るべく試行錯誤を重ねてきたそうです。

今年の4月から、おどもカフェで作るようになり、それまでの「家庭料理のオムライス」と「お店でメニューとして出すオムライス」との違いに、当初は苦労したそうですが、レシピの見直しを繰り返し、最近ようやく自分で納得したものが作れるようになったそうです。

「食べる人に『世界で一番美味しい!』と言ってもらえるよう、楽しみながら努力を続けていきたい」と話してくださいました。これからの展開に乞うご期待!です。



# フレッシュギャルはあなた



大下條 平久 <sup>るみ</sup> 村澤 瑠美さん

## ・あなたが今やっていることについて教えてください

私は今年の5月から阿南町の「アイロードあなん」で働き始めました。まだ入ったばかりなので、できることも少ないですが、先輩と同じ仕事ができるように日々がんばりたいと思います。

いっしょに働いている先輩もとても優しいので、楽しく仕事できてとても充実しています。

## ・これからやりたいことは何ですか

コロナが落ち着いたらお休みをもらって、友達などと旅行に行きたいです。

それからライブに行きたいです。今はコロナのせいでライブも全て延期になっているので、私の楽しみがひとつなくなってしまっていて悲しいです。なのでコロナが落ち着いたらライブに行きたいです。

# 私の夢



新野小学校 6年  
加藤 <sup>たまこ</sup> 玉麻子さん

私の夢は、ファッションデザイナーです。

洋服の色や形をデザインする人です。なりたい理由の一つ目は、自分の服をコーディネートするのが好きで、自分の持っている服の選び方しだいで見た目が変わると思うと、とても楽しいので、もっと色々な人にその事を知ってもらいたいからです。

二つ目は、カワイイ服やおしゃれな服を見ると、とてもわくわくするからです。たとえば、テレビなどを見ていて、タレントの人たちが着ている服を見ると、「こんな服も作ることができるといいな。私も作りたい。」と思ったからです。

だから私は着ている人が勇気をもらえるような服を作る、ファッションデザイナーになりたいです。

# 公民館分館紹介

## 大下條地区第二分館

大下條の第一分館は、大下條地区としては、北條地域の一番南側に位置しています。当分館は御供地区と、中谷地区の合同になっています。この地区は大きな公共施設が多い地区です。

まず、「県立阿南病院」、「アイライフあなん」、「飯田保健所阿南支所」、「阿南高等学校」、また、



中谷地区



御供地区

(九月ごろ)、「運動会」または「球技大会」(十月ごろ)、「お楽しみ会」(卒業生を送る会)(十二月ごろ)があります。

また、中谷地区と御供地区とは別々に行いますが、「どんど焼き」(一月)も楽しみの一つです。「どんど焼き」ではミカンを配るほか、各地区へ金銭補助も行っていきます。

かつては、「敬老会」の行事として演芸会を催して、地区の方たちの踊り、カラオケ、演芸、手品などでお年寄りの方々に楽しんでいただいていたりましたが、ここ数年は、開催者の都合、お年寄りの方の出席率の低下などがあり、記念品を各お年寄りの家までお届けするようになりました。

「お楽しみ会」(卒業生を送る会)は、小中学生を招いて、演芸、楽器演奏、手品などを行い、子どもも家族といっしょに、飲んだり食べたりしながら楽しいひと時を過ごします。

昨年度の会で好評だったのは、「射的」と「ビンゴ」でした。特に「ビンゴ」の景品は豪華で、はずれ無しなのでみんなに喜んで



お楽しみ会

られました。

その昔は「川開き」でにぎわった当地区ですが、他地区と同様に、高齢化が進み、一人暮らしの家庭が増えてきていますので、「ネストおども」など若い方の加入もお願いして公民館活動を進めていきたいと思えます。

♪山も浮世もさらりと抜けて

降りりや温田は花ざかり

南宮音頭



# できごと 7・8月

## 新野地区子ども会育成会 『思い出づくりの日』 8月10日



新野地区子ども会育成会は、8月10日に毎年恒例の『思い出づくりの日』を開催しました。新型コロナウイルスの感染拡大により様々な行事が開催中止となるなか、「新野の子どもたち」に夏休みの思い出をつくって

もらいたい」という思いから、参加者を新野在住の子どもに限定し、役員はじめ参加者全員の見学をすることで開催に踏み切りました。

今年は2部構成で、午後3時から市ノ瀬川親水公園での魚つかみ、7時30分から新野学校グラウンドで花火大会を行いました。

花火大会では、「スリッパとばし」のゲームに続き「新野の盆踊り」、当初CDの予定でしたが、音頭取り3人がボランテアで来てくれ、盆踊りの雰囲気味わうことができました。また、飯田の花火業者さんのご協力により20発余の打上げ花火も堪能。最後に手持ちの花火を行い、盛りだくさんのイベントに子どもたちの笑顔がはじけていました。

## 第69回飯伊陸上競技選手権 大会結果 8月22日

新型コロナウイルスの影響で開催が心配されましたが、関係者の熱意により予定通り開催されました。阿南町からは富草小学校の3名の選手が参加しまし

た。結果は以下のとおりです。  
松下 幸太選手（富草小）  
（小学男子1000mの部）  
7位入賞（参加選手18人中）  
南島 颯太選手（富草小）  
（小学男子4年1000mの部）  
8位（予選1組3位）  
飯島 透奈選手（富草小）  
（小学女子6年1000mの部）  
予選1組6位で決勝進出ならず

## 阿南町成人式について

今年の8月15日に開催を予定していた成人式は新型コロナウイルスによる感染拡大防止のため延期としました。今後は対象者が全員20歳以上で成人式を迎えられるように、1年ずつ後にずらして成人式の開催を予定しています。

ご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。

(例)

対象者	成人式実施年月日
令和2年度に20歳を迎える方	令和3年8月15日
令和3年度に20歳を迎える方	令和4年8月15日
令和4年度に20歳を迎える方	令和5年8月15日

■問合せ 教育委員会 ☎22-2270



小学男子1000mの部で7位と健闘した松下幸太選手（写真左から3人目、ゼッケン83番の選手）

# あの人この人



富草 鴨目  
ふみかず  
小林 文和さん(写真右)(90歳)、  
千代さん(写真左)(85歳)

本年結婚六十二周年！文和三  
十歳「そろそろ身を固める」、千代  
二十五歳「えっかんに嫁に行け」で  
いっしょになったのが昭和三十三年。  
ご両人とも、産めよ殖やせよの戦  
時下、八人兄弟姉妹の中育ち、文和  
さんは当時の国民学校五年生で終  
戦を迎えた。中学高等科を卒業し  
てすぐ地元で職はなく、柳行李を  
背負って行った先は、岐阜県高山の  
奥のダム工事で四年間、ここで一生  
の仕事の柱となる当時はまだ先駆  
けだったボーリング技術を学び、その  
後は佐久間ダム、黒部ダムと点々と  
土方業で経験を積む。

和知野生まれの千  
代さんは、新制中学  
卒業後、通称『煙突女  
学校』と言われた岐  
阜県の紡績工場で五、六年働いた  
後、当時飯田市に初めてできたヤク  
ルトの工場へ入社し、ヤクルトレディ  
の先駆けとして勤めた。

そして「どこに行くんだか、顔も  
性格もどんな人だかも知らずに鴨  
目に嫁に来た」とのこと。

当時、旦那様の弟妹達、舅姑義  
祖父に囲まれ、朝早くから竈で三  
升釜の飯を炊く一日が始まる。蚕  
を飼い、とにかく食べるために米と  
野菜作り。地域柄、一年中堤のよう  
に水を貯めておかなければならない  
田んぼの中には、フナやドジョウ、ツボ  
がいて、「ツボを食べると目の綺麗な  
子になる」と、子どもが出来ると姑  
が捕ってきたツボを味噌で煮てくれ  
た。おかげに三人息子を授かり、外  
に稼ぎに出てほぼ不在の旦那をよ  
そに、『三ちゃん農業』おじいちゃん・  
おばあちゃん・お母ちゃんの家を回  
したそうである。

「思えば、今よりいい時代だったかも  
知れないなあ」。

核家族化、家族制度がまるく変っ  
てしまった現代日本を疑問に思う。

旦那様は七十三歳まで県内中を  
仕事で回り、天竜川に架かる橋は

全部調査しボーリングで活躍、『在  
り後家』とよく言われた奥様と家  
族で、蚕の繭も最盛期には1tとっ  
た。

「生き過ぎた！」なんてまだまだ  
これからお二人で、言いたいこと  
を言い合って楽しく生きましょね。

## うちのホープ



富草 栗野  
高山 竜之介さん・麻利恵さんの  
お子さん  
綾斗くん(5歳)(写真右)  
奏太くん(2歳)(写真左)

僕の名前は綾斗です。隣にいる  
のが弟の奏太だよ。今は富草保育  
園に通っていてうめ組さんなんだ。  
さくら組さんの時に阿南町へ引越  
してきたんだよ。新しいお友達が  
できるか心配だったけど、すぐにみ  
んな仲良くしてくれてあつという  
間にみんなが大好きになったよ。毎  
日保育園へ通うのが楽しみなんだ。  
得意なことはフラフラを回す

こと。うめ組さんになってから始め  
たけれど、自分でもびっくりする  
くらい上手に回せるんだよ。小さ  
なものから一番大きなものまで長  
い間回せるよ。目を閉じてみたり  
回しながらジャンプをしたり楽し  
んでいるよ。

大きくなったら仮面ライダーゼ  
ロワンみたいに強くなりたいな。だ  
つて警察官よりも悪い人をいっぱい  
やつつけられるから。お家では仮面  
ライダーになりきって弟といっしょ  
に戦いごっこをして遊ぶよ。泣かせ  
てママに怒られることもよくある  
けれど、弟といっしょに遊ぶことも  
大好きなんだ。



コロナ禍で、不要・不急の外  
出を控えた今、コロナ巣ごもり  
で夫婦の会話が増えた結果、さ  
さいなことでも口論になる。結婚  
期間が長い夫婦は会話が少な  
いと言われます。また、子ども  
が巣立つと会話はさらに減りま  
す。会話が深い夫婦ほど円満だ  
と言われます。会話の基本はお  
互い名前呼び合うこと。  
「おい・おまえ」のような呼  
び方には気をつけましょ。